

がんばる農家プラン

～菅沢の美しい自然環境を守り続ける農業～

作成年度 平成28年10月

作成者 山本靖志

~菅沢の美しい自然環境を守り続ける農業~

作成者 山本靖志

事業主体 山本靖志

1. はじめに（プラン作成に至った経緯）

- ・日本の農業の現状は、高齢化による担い手不足となり、私たち60歳前後の農家が多いときく。特に中山間地である菅沢のような地域では、それに加えて過疎地でもあり、農業どころか住む人すらいなくなってきた。TPP問題など、先行き不透明な話が新聞を賑わせており、それらの不安要素が更に若者を農業から遠ざけているように思われる。
- ・私は、その情勢に対応するため、独力で様々な取り組みを地道に行ってきた。コンバインや乾燥施設など生産設備の拡大、生産体制の強化、販売ルート確保・拡大、農地に関わる道路や水路・暗渠などの管理や修繕など多岐にわたる。しかしながら、水稲単作農家として一人で農業を続けていくにあたり、数々の課題や問題点があり、死活問題となっている。これを克服するためには、今までの取り組みの継続だけでは通用しなくなっている。「次の一手」を考えなければ農業収益向上は見込めなくなるため、農業を継続することが難しくなっているのが現状である。「次の一手」として、今まで以上に面積拡大を進め、トラクター、田植機、コンバインの大型化を図り作業の効率化を進めたい。今後、後継者を探しながら経営継承も視野に置いて、地域の農地を守ってくれる人材育成を行いたい。農地の荒廃は地域の荒廃である。

<プロフィール>

- ・ 歳（平成28年11月現在）
- ・ 14年前に1.4haの作付面積で農業をスタートした。
- ・ 現在（H28年秋）は、自作・小作地を合わせて3.55haまで増え、受託作業3haを含めると6.55haの農作業を行っている。
- ・ 近年、地域の高齢化が加速度的に進み、作付面積と受託面積が増えている。今年も春の田植え前に、急遽65aの作付依頼があり、地域農業が限界を迎えていることを感じている。



菅沢の農地、谷沿いで不整形なほ場が多い



格納庫は手作りでコストをかけない努力をしてきた

2. 経営者の実績

- (1) 認定農業者 平成27年11月認定
- (2) 日南町人・農地プランに位置づけられる中心となる経営体
- (3) 過去の補助事業の活用 なし

3. 生産経営の現状・課題

- (1) 生産経営の現状 (平成27年度)

《経営規模》

自作地	借入地	合計
0.7ha	2.2ha	2.9ha

《作目》

水稻
2.9ha

《作業受託》

耕耘	代掻き	田植え	稲刈り	乾燥調整	苗づくり
0ha	0ha	3.3ha	3.1ha	3.6ha	0.3ha (60枚分)

《所有機械・施設》 H28.1月現在

		現有資産	能力	導入時期	取得価格
機械	播種	播種機			
	耕耘	トラクター・ロータリー	33ps	H22.12	1,500,000
		パワーハロー		H25.4	900,000
		グランドソー 中古		H26.1	195,500
	田植	田植機	5条	H18.4	1,674,750
	防除	動力噴霧機			
	収穫	コンバイン	4条	H26.9	5,500,000
	調整	乾燥機	18石	H16.9	900,000
		乾燥機	25石	H15.9	1,475,000
		籾摺機	4インチ	H17.3	710,000
		穀物搬送機		H16.9	255,150
		自動計量機		H17.3	355,000
	輸送	トラック	2t	H26.1	2,000,000
	管理	草刈機		H17.3	175,000
ミニパワー			H22.11	828,000	
施設	倉庫	農業倉庫(増築)		H18.12	154,086
		格納庫		H16.8	3,008,889

③育苗ハウスの不足

規模拡大に伴い、現状のハウス規模では育苗ができません。当面、作付け面積が確定しないヒメノモチはJ A苗を購入することとし、コシヒカリ・ひとめぼれを自家育苗していきますが、それでもいずれ育苗面積が不足します。

④籾摺機の更新

乾燥・調整の機械は当面現有機械で対応できますが、籾摺機は老朽化してきているため更新が必要です。

⑤玄米品質の改善

斑点米カメムシの防除には大変気を遣っており、暦どおりの防除を行っています。しかし、近年斑点米カメムシ被害が多く、特にH27年産米は例年以上に被害が多かったです。斑点米による格落ちにより400~500円/30kg(13~16円/kg)程度安く引き取られます。

薬剤体系によるこれ以上の対応には限界があります。

(4) 改善内容と目標値

①, ②田植機の能力アップと箱剤・除草剤同時施用のアタッチメント装着

田植機を5乗植えから6乗植えにすることで作業スピードはアップします。

更に、箱剤と除草剤を同時施用するアタッチメントを導入することで大幅な省力化を図ることができます。

中後期の除草には、粒剤(その他剤型としてフロアブル、投げ込みがある)を使用される方が多いですが、重たい背負動力散布機を背負って水田を1周せねばなりません。試行錯誤を続けた結果フロアブル剤を使用することで水田の中を1往復するだけで効果を得ることが出来るので、今後はそれを実践していきたいと思えます。

田植え同時散布で、今までの悩みはスーッキリ! **解決!**

悩み① 大区画ほ場だから、薬剤散布にも多くの時間が取られるんだよ。

時間短縮 田植えと同時に薬剤散布ができるので、作業時間を大幅に短縮できます。

3つの作業を1回で!

箱剤・田植え・除草

悩み② 薬剤散布って、カラダに負担がかかるんだよ。

労力軽減 田植え同時散布なら手散布不要! 作業がとってもラクになります。

箱剤用剤散布 除草剤散布

悩み③ 手散布だと、ムタに多くの薬剤を撒いている気がするのよ。

コスト削減 均一散布だから、こぼれや過剰散布の心配がなく経済的です。

手散布の場合 機械散布の場合

③育苗ハウスの増設

中古資材を譲り受けて育苗ハウスを増設します。

④籾摺機の更新

現有機械と同等規模（4インチ対応）の籾摺機を更新します。

⑤玄米品質の改善

薬剤体系では対策ができないため、色彩選別機を導入することで等級を確保し、単価を落とさないようにしたいと考えています。

《目標値》

	現状 平成27年	1年目 平成28年	2年目 平成29年	目標年 平成30年	参考 平成31年
水稲作付面積	2.90ha	3.55ha	4.00ha	5.50ha	5.50ha
田植え受託面積	3.3ha	3.3ha	3.3ha	3.3ha	3.3ha

4. 事業効果

- ・必要最低限の機械導入で規模拡大をすることで所得を増やすことができます。
- ・周辺農家の離農が止まらない本地域での農地の受け皿となり、地域内の農地保全をすることができ、菅沢の美しい自然環境を守り続けることができます。
- ・経営を安定させ、地元の人を雇用することができる。

5. 目標達成に向けた取り組み（年次別の行動計画）

項目	内容	H28	H29	H30
規模拡大	作付け及び受託面積の増	○	○	○
乗用田植機（6乗）	がんばる農家プラン事業で導入	◎		
育苗ハウス（中古）	自己資金で導入		○	
籾摺機	自己資金で導入			○
色彩選別機	がんばる農家プラン事業で導入			◎

※ ◎は県、町の支援が必要なもの（がんばる農家プラン事業）

6. 機械・作物の年次別計画

年度	H28年度 (計画)	H29年度 (計画)	H30年度 (目標)	H31年度 (参考)
機械・施設 導入計画	田植機 (3月)	育苗ハウス (4月) (中古)	籾摺機 (8月) 色彩選別機一式 計量選別機 (8月)	—
対象作物の 生産計画	水稲 3.55ha (作業受託) 耕耘 0ha 代掻き 0ha 田植え 3.3ha 刈取 2.7ha	水稲 4.0ha (作業受託) 耕耘 0ha 代掻き 0ha 田植え 3.3ha 刈取 3.0ha	水稲 5.5ha (作業受託) 耕耘 1.0ha 代掻き 2.0ha 田植え 3.3ha 刈取 3.0ha	水稲 5.5a (作業受託) 耕耘 1.5ha 代掻き 2.0ha 田植え 3.3ha 刈取 3.0ha

7. 支援事業の内容

(単位：円)

内 容	事業費 (税抜き)			負担区分
	H28 (計画)	H29 (計画)	H30 (計画)	
田植機	3,142,800			県 1/3 町 1/6 本人 1/2
色彩選別機一式 計量選別機			3,316,000	

※補助残は全て借入 (JA) を予定している。

8. 添付資料

- ほ場図
- 導入機械カタログ、見積書
- 経営試算